

八工大音楽研究部と八学大軽音楽部が企画 若さ全開 魂込め熱唱

盛況
ライブハウスツアー「55」



八戸市近郊の若いバンドマンが魂のこもった音楽を披露しているライブツアー

八戸工業大と八戸学院大の学生が中心となり、八戸市の音楽シーンを盛り上げようと5月から開催しているライブハウスツアー「55(ファイブティファイブ)」が、盛況を見せている。ライブは全3回、27日は八戸市類家の「ROXX」で2回目を実施。市近郊の10〜20代のバンドマンが、約30人のファンに向け、魂のこもった音楽を披露し、会場は熱気に包まれた。(佐藤雄)

ライブツアーは、八戸工業大音楽研究部(笠井勇佑代表)と八戸学院大軽音楽部(森谷佳記代表)が、初めて開催。きっかけは市内のライブハウスから「若者主体で、活躍の場を広げてほしい」と、半年間かけて準備を進め

た。出演者を集めることに苦労したが、新たなつながりを生かしてバンドを結成するなどし、約50人、14バンドの参加が決まった。若者でイベントをつくる実感が湧いたという。

ライブは19日、同市六日町の「パワーステーションA」を皮切りにスタート。ツアー感を出すため、ライブチケットは共通のデザインにした。2回目は、4バンドが出演し、それぞれが30分の持ち時間の中で、ロックや弾き語りなど、幅広いジャンルの音楽を披露。来場者と一体となって盛り上がった。

2回目を終え、森谷さんは「企画に手応えを感じる。まだ気は早いけど、第2弾もやりたい」と生き生きとした様子。笠井さんは「大学生だけでなく、ハズぶっている若者に表に出てきてほしい」と力強く呼び掛ける。

最終日となる30日は、午後4時から、同市三日町の「ブラット」で開催予定。